

図書館デザイン会議 第二回要点録

1. 第一回の振り返り(図書館長 横倉)

前回の報告参照

2. アンカンファレンスについて(講師 岡本氏)

- ・アンカンファレンスとは：おもに IT 業界で行われる、効率的・迅速にアイデアを共有するディスカッションを行う手法。
- ・何かをやり遂げる際に必要なことは、人の話を聴くこと。
- ・安心して会議を欠席できるよう、また自身があとで振り返ることができるように記録は重要。
- ・発言者(議題を出す側)も重要だが、後ろについてきてくれるフォロワーも重要。

【今回のルール】

- ・10分ごとの時間に分け、4アジェンダ(議題)×4回 計16アジェンダの話し合いを行う(下部表1参照)
- ・早いもの順で、ホワイトボードに16個アジェンダを出す。
- ・アジェンダは一人一つまで出すことができる。図書館で自分がしたいこと・みんなに共有したいことをホワイトボードに記入。特にない人はアジェンダを出さなくても良い。
- ・時間単位で関心があるアジェンダごとに集まり、話し合いを行う。
- ・話し合った意見や内容を模造紙に書き込み、記録とする。
- ・欠席者から事前にもらったテーマも参考にする(ホワイトボードに掲示)
- ・すべての話し合いが終了後、ラップアップを行う。

※ラップアップ：代表者が全体に対し、話し合ったことのまとめを発表する。

表1

時間	アジェンダ			
10:30-10:40(Slot1)	A-1	B-1	C-1	D-1
10:40-10:50(Slot2)	A-2	B-2	C-2	D-2
10:50-11:00(Slot3)	A-3	B-3	C-3	D-3
11:00-11:10(Slot4)	A-4	B-4	C-4	D-4

3. アンカンファレンス 全16回（参加型ワークショップ）

「アンカンファレンス 各議題詳細」 参照

○10:30-10:40 (Slot1)

- A-1：生活を豊かにするための中高年のための遊び～提案と実験～
- B-1：「やとのいえ」を紹介したい みんなで読みたい
- C-1：ネット・デジタルサポートチーム
- D-1：図書館未来ビジョン・ライブラリートーク～クラブ活動につなげる

○10:40-10:50 (Slot2)

- A-2：選書プロセスの職員との共有（みんなで自覚・思考）
- B-2：多摩のまちづくりを考える
- C-2：声優さんまたは俳優さんによる名作読みきかせ会
- D-2：みなさんのアイデア実現を支える図書館を知る学び！！
図書館にボラセンをつくる

○10:50-11:00 (Slot3)

- A-3：ゼロからなにか（作品のようなもの）を創り出す
絵本や数えあそびなど、世界観を身体で体現しつつ自ら創り出す場面もつくる
- B-3：「村上春樹をどう読むか（仮題）」について講演会をする
- C-3：「涼しい」をテーマに選書したり（職員に相談してもよい）、言葉と本と絵で展示する（最初に講座開催）
- D-3：紙にこだわる！
①自分の本を作る製本教室を開く ②そして、その本を図書館の本として置く

○11:00-11:10 (Slot4)

- A-4：東寺方図書館で夏休み宿題サポート（対象：小学生・中学生）
これをきっかけに地域図書館でイベントをできるようにする
- B-4：「読書の楽しさ」を共有する
読書をする人が減っていることを実感しているので、「読書の楽しさ」を共有するイベントがしたい
- C-4：高校生×図書館×多摩地域の方々との交流
- D-4：いろんな分野について少しずつ書かれた冊子を図書館に置く

4. 全体での意見交換・第三回に向けて

- ・アンカンファレンスを受けての意見交換（3ページ参照）
- ・多摩市長挨拶

○アンカンファレンスを受けて 発言まとめ（意見まとめ：図書館）

参加者 1

多摩市立図書館開館 50 周年記念で、振り返りの展示をするため、図書館の草創期の話を当時の関係者からうかがったがご高齢の方も多く、書き取りグループも少ない。
まだご健在の方にどんな思いで図書館ができたのか、どんなプロセスがあったのかを聴き、その話を未来につなげるために共有したい。そんなイベントをやって欲しいし全面的に協力したい。蓄積を生かすことは書籍の蓄積にも繋がる。将来に繋がると思う。

参加者 2

中央図書館は、基本構想策定の際の柳田邦男さん(策定委員会委員長)の「知の地域創造」という言葉を合言葉に始まったはず。中央図書館の入口には、「多摩市自治基本条例 前文」、「多摩市立図書館基本方針・運営方針」が掲示されている。
私は、「未知の地域創造」と考えている。この講座は、「ボランティア養成講座」であることから、図書館にボランティアセンターを持ってきてほしい。社会福祉士を配置して欲しい。地域のことを一緒に連携しながらやっていきたい。

参加者 3

館長は、「ボランティア」という言葉を使っていたが、「パートナー」がふさわしいと考える。
「イベント企画運営ボランティア」という言葉はやめてほしい。
今年が読書活動振興計画改定の年で、大事な年である。付随してアンケートも始まっている。「未来ビジョン」でこれまでの図書館をどうするかではなく、これから 50 年先をみて、次の世代のためにどういう図書館があったらいいのかを考える機会を作りたい。こういうことを含めて未来ビジョンを語っていくことが大事な年ではないか。市民と協働で企画を行うなかでも重要視したいポイント。

参加者 4

本日のアンカンファレンスで、17 のトピックがでた。いくつかのトピックは融合させることができるのでは。ひとつのトピックだけで考えるのではなく、良い部分を取り合ってみなさんで納得できるイベントにしたい。

参加者 5

「ヤング」が大切。今後のイベントでも若い人の関わりを増やしていきたいし、それが次世代にも続いていく。
また今後は学校図書館を重視するとよいと思う。学校図書館一校あたり、年間 40 万円程度の予算である。これからは地域館も大事だが、学校図書館も重要ということを書いていきたい。

岡本氏より

- ・アンカンファレンスの良さは、素早く、多くの人の様々な声を耳にすることができること。
今日聞いたアイデアの中で協力・連携できそうなことがないか振り返りをする。
- ・第三回は実際に形にするために企画書に落とし込むことを行う。
企画を実現するためには税金を使うため、納得のいく資料を作る必要がある（=企画書）
どうしたらみんなが納得できるか、自分も参加・賛成したいと思うかを考えることが必要。
多くの人が賛成したものは必ず実現する（民主主義）
- ・活動の名称をどう名乗っていくかはとても大事。全ての活動に根底で繋がるものである。
「ボランティア」には自発的であるというニュアンスはあるが、タダというニュアンスはない。有償ボランティアもあるが「ボランティア」だと無償という認識が強くなる。
その他の名称だとパートナー、サポーターなどがある。
シニア世代にわかりやすく、若い世代もかっこいいと思える名前を熟慮すること。
- ・名称を決めたら活動はどうするか、基本的な原理や精神は何に置くのか、を全員で考えることが必要。他市事例の中で選ぶのではなく多摩だからこそその文脈を活かしたやり方を実現することも次回考えたい。
- ・参考として以下がある。
 - 須賀川市民交流センター
市民活動サークル「tette パートナーズ」。名称を決めるのに激論3年ほどかかった。
 - 名取市
「名取市図書館友の会 などと」
対等に協働すること、協力し合うことが旗頭。
市から一銭も貰わないことをポリシーとしている。お金を貰うと主従関係が生まれる。
補助金をもらうより、年会費を取って自分たちで運営していくことを選択している。
- ・多摩市でも全ての子どもが自分の意志で中央館に来られるわけではない。子どもが図書館に行くことに対して否定的に思う親もいる。小中学生、未就学児にも選択肢が必要で、その場合子どもたちが日常的に訪れる幼稚園、保育園、学校が最初の選択肢になる。学校図書館については重要な問題なのでなるべく多世代で集まれる場で考えたほうが良い。
- ・デザイン会議などに、小中学生、未就学児が来れるといい。どうしたら実現するか考えることが必要。
- ・今日参加している方は是非友達や知り合いに共有して、様々な世代で話し合う機会を作れるようにしてほしい。次回第三回は最終回だが、多摩市にとってはここからが始まり。